



①最新の加工設備がそろう工場
②左：波刃
中央：スプライサー
右：ノコ刃
③ユニット化したスロッター上刃
④レーザー加工機
⑤左上/右下：ライナーカット
左下：仕切下刃
右上：ノコ刃

近畿刃物工業 株式会社



代表取締役社長
あがた 清信 さん



付加価値の高い製品で
収益性の向上

当社は創業以来、段ボール加工用刃物に特化した製造を行っています。専門メーカーは珍しく、西日本で1社だけです。経営理念は「笑って働ける会社、安心して眠れる会社」。これを維持するためには安定した収益体制の確立が不可欠だと考えます。顧客のニーズをよく聞き、それに応える付加価値の高い製品を生み出すことで、顧客満足度の向上を目指します。また、地域活動の一端として、バスケットボールチーム「大阪エヴェッサ (OSAKA EVESSA)」のスポンサー企業として、支援活動を行っています。

- 主な事業内容
紙器・段ボール用刃物製造
- 主な取引先 (納入先)
段ボール製造メーカー、機械メーカー

住 所 / 〒570-0003
大阪府守口市大日町3-33-12
TEL / 06-6901-1221
FAX / 06-6905-9713
創 業 / 昭和30年
設 立 / 昭和35年6月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 38名

http://kinkihamono.co.jp/

設備投資と人材育成で 付加価値の高い刃物を製造

事業内容と沿革

段ボール加工用刃物製造に特化しノウハウ蓄積

昭和35年に創業者の阿形清氏が大阪府守口市で段ボール刃物加工専門メーカーとして設立。当時、段ボール加工用刃物は海外からの輸入品がほとんどで、日本では鍛冶屋などが製造していた。その後、特化することで蓄積したノウハウや技術の研鑽で、顧客から信頼される会社に成長した。鋼材などの材料を国内のメーカーや商社から仕入れ、製造は自社で行っている。

ほとんどを内製化しており、鋼材からの型抜き、成型、焼き入れ、研磨、仕上げまでの全工程を一貫で生産できる

体制を構築。短納期にも対応でき、商品開発の情報などが外部に漏れることがない。

また、営業社員が定期的に顧客を訪問し、自社製品の使用状況を確認、情報を収集することで、品質向上につなげている。

現在、段ボール加工用刃物製造に関する国内特許17件、海外特許2件 (アメリカ・中国)、実用新案1件を取得。顧客が使いやすく付加価値の高い刃物製造を追求するため、会社を進化させる取り組みを続けている。

強み

多品種少量生産に対応する 商品管理システムの構築

社員の平均年齢は33歳と若い会社。職人技といわれる技術の伝達には時間がかかり、個人の能力により達成のレベルに差が生じる。そこで、レーザー加工機やマシニングセンター (MC) などの生産設備を積極的に導入し、機械化・自動化をすすめてきた。結果、製造時間の短縮ができ、製造コストの削減につながった。顧客に無理のない価格で、付加価値の高い刃物を購入してもらうための努力は惜しまない。

創業以来、段ボール加工用刃物に特化した製造を行い、これまで蓄積したノウハウも大きな武器となっている。段ボール加工用刃物は大半がオーダーメイド。顧客によって微妙に要求形状が異なるため、多品種小ロットなものづくりとなっており、正確な製品管理が必要になる。そのため、製品ごとにバーコードと番号を割り振って図面管理している。阿形清信社長は「一品からの追加注文にもスムーズに対応できる商品管理システムを構築している」と語る。

取り組み

刃物交換時期の “見える化” に取り組む

阿形社長が就任した平成12年から大胆な経営革新を進めている。平成17年には品質管理・保証の国際規格であるISO9001を取得、平成29年にはエコアクション21の認定を受けた。社員教育にも力を入れており、外部での研修を積極的に受けさせているほか、社内技能大会も開催している。製造設備だけでなく、デジタルマイクロスコプや画像寸法測定器、3次元測定機、硬度計なども積極的に導入し、刃物の品質向上に努めている。

現在、取り組むのは刃物の交換時期の曖昧さをなくす対策で、刃先の摩耗を“見える化”する「キラット」。独自改良を加えた最新のレーザーマーカーで刃先に深さの異なる溝を数本彫りこむ。この刃物を使用すると、摩耗に合わせて浅い溝から刃先がキラッと輝きだす。溝は段階的に消えていくので刃先の状態を誰でも簡単に判別でき、交換時期の目安となる。阿形社長は「顧客の思いプラスαの製品製造ができるよう努力を続ける」と話す。

今後の展開

新たなクラスター作りに 挑戦

設立当時と比較すると、社員が増え、会社の規模も大きくなった。それに伴い、社員の能力をさらに向上させる。それぞれに目標値を設定し、日々の仕事の中で伸ばしていく。例えば、作業マニュアルの作成。社員それぞれが自分の仕事のマニュアル作成に取り組んでいる。すべての社員が自分以外の仕事内容を理解し、カバーできる体制を構築するため、2年程前から開始した。自分で理解していても、他人にわかりやすい文章にすることは難しい。社員が改めて自分の仕事を見直す機会となっている。

また、現在持つ技術力をさらに深め、伝わりやすくするために技術の“見える化”をすすめる。それを新聞やウェブサイト、展示会で見てもらうことにより、段ボール加工用刃物以外のニーズを探し、新たな会社の柱となるクラスター作りにも取り組む。「自社に最善と思われる事前の一策を考え、経営している」と阿形社長は語る。